令和元年8月23日 日本原子力発電株式会社

敦賀発電所2号炉

「敷地の地形、地質・地質構造について」に関する審査資料の記載の不備について

1. 概要

敦賀発電所 2 号炉 新規制基準適合性審査において、平成 30 年 11 月 30 日の審査会合(第657回)で説明した資料(参考資料 1:連続性評価の具体的プロセス)の破砕帯データの一部に、記載の不備が判明した。

記載の不備は、「敷地の地形、地質・地質構造について」の次回審査に向けた資料の整理の中で、当社社員によって発見したものである。

このため、これまでに提出した審査資料の再レビューを行うとともに、原因を調査し、その 結果に基づき、再発防止対策を実施した。

今回判明した記載の不備は、評価結果を導く(敷地内の破砕帯分布図を作成する)ための作業プロセスについて解説したものが殆どであり、申請書の評価結果(破砕帯分布図等)に影響を与えるものでは無いと考えている。(添付資料1を参照下さい)

2. 記載の不備に至った経緯

審査資料は、破砕帯データの出典元である「細分化カタログ」(データ集)のデータを引用して作成している。「細分化カタログ」は、多量の画像データ等が含まれることから、参考資料1の連続性評価の具体的プロセス等は、ファイル分割し、データ量を低減し、扱いやすくしている。

本件については当社社員が、分割された「最新版ファイル」を印刷すべきところ、資料の一部について、修正途中の「旧版ファイル」を誤って印刷したため、審査資料の記載の不備に至ったものであることが判明した。(添付資料2を参照下さい)

なお、分割して作成した審査資料については、社内規定「官庁定期報告書作成及び官庁対応 業務要項」に基づき、データチェックを実施した上で、印刷時に一体化させていた。

3. 再レビューの結果

(1) 全数照合確認の実施

これまでの審査資料に記載された破砕帯データについて、当該データの出典元(細分化カタログ)との全数照合等の確認を実施した。この確認は委託先と当社が実施した。

(2) 確認結果

「敷地の地形, 地質・地質構造について」の審査会合において使用した資料の「記載の不備」の頁数を次に示す。

(「記載の不備」の例は添付資料3を参照下さい)

審査資料の再レビュー結果

	確認対象	記載の不備の頁数
	本編資料	全 262 頁中 3 頁
平成 29 年 12 月 22 日	参考資料 (1/3)	全 524 頁中 39 頁
第 536 回審査会合資料	参考資料(2/3)性状一覧表	- (*)
	参考資料(3/3)ボーリング柱状図・コア写真	- (*)
平成 30 年 7 月 6 日 第 597 回審査会合資料	本編資料 コメント回答	無し
第 007 四倍且云口其代	│ │本編資料 コメント回答	全 136 頁中 7 頁
T- 100 F 11 F 00 F		
平成 30 年 11 日 30 日	参考資料1 連続性評価の具体的プロセス	全 754 頁中 159 頁
第 657 回審査会合資料	参考資料 2 性状一覧表	全 196 頁中 25 頁(*)
	参考資料3 ボーリング柱状図・コア写真	全 900 頁中 15 頁(*)

* 第 657 回審査会合資料 参考資料 2 及び 3 は, 第 536 回審査会合資料の参考資料(2/3)及び (3/3)をそれぞれ更新(データを追加)したものであるため, 更新後の第 657 回について再レビューを実施した。

4. 原因

- (1) 当社と委託先は、審査資料の更新(チェックと修正)を繰り返し実施していたが、分割された「最新版ファイル」の管理を確実に行うためのルールメイキングが成されていなかった。具体的には、分割された「最新版ファイル」が、修正作業日毎の複数フォルダに保存され、当社社員は、どのファイルが最新版であるか把握し難い状態であった。
- (2) 審査資料作成当時(平成30年10月頃),審査資料として「印刷した紙面」が「最新版ファイル」であることを確認するルールが無かったため、当社社員は、最新版と思い印刷した紙面のデータチェックを実施せず、資料の体裁と落丁のチェックのみ実施していた。従って、「印刷した紙面」が「最新版ファイル」ではないこと(「旧版ファイル」であること)に気付くことが出来なかった。

5. 対策

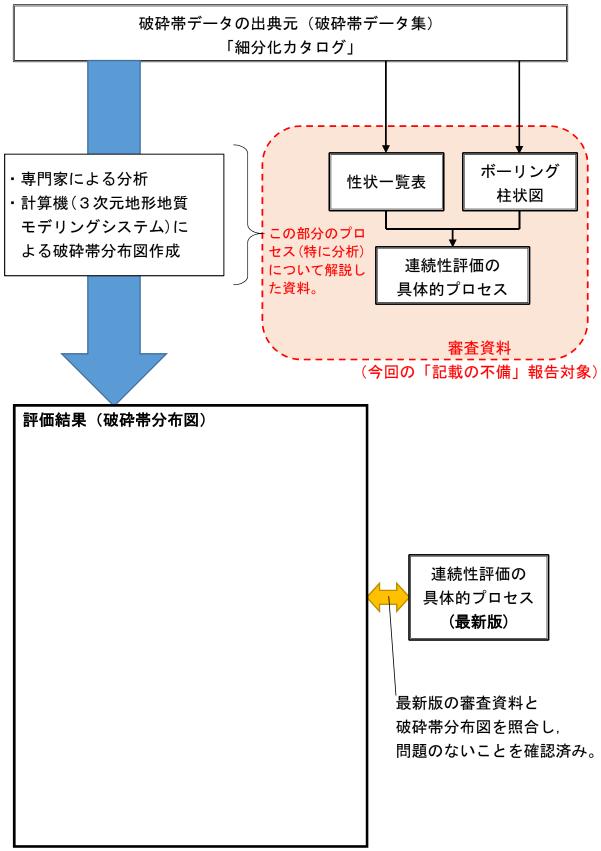
- (1) これまでの審査資料を全て「最新版ファイル」に更新する。また、審査資料の評価結果に 与える影響を確認する。【実施済み、評価結果に影響を与えるものでは無いと考えている】
- (2) 審査資料の全ての「最新版ファイル」の保存場所を一元化(専用フォルダを作成して管理者を定める)し、当社と委託先の作業者全員で共有することをルール化する。⇒原因(1) に対する対策【実施済み】
- (3) 審査資料として提出する「印刷した紙面」についても、データチェックを行い、「最新版ファイル」であることを確認する。⇒原因(2)に対する対策【実施済み】なお、東海第二発電所の工事計画認可補正申請(平成30年10月)における記載不備の対応においても同様の原因が抽出されており、現在は、「印刷した紙面」が「最新版ファイル」であることの確認がルール化されている。

6. 添付資料

- (1) 評価結果(破砕帯分布図等)と今回の報告対象の関係
- (2) 「記載の不備」発生イメージとデータ再確認箇所
- (3) 敦賀発電所2号炉「敷地の地形、地質・地質構造について」に関する審査資料の記載の不備について(正誤比較)【抜粋版】

以上

評価結果(破砕帯分布図)と今回の報告対象の関係



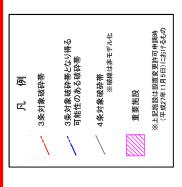
枠囲みの内容は営業秘密又は防護上の観点から公開できません。

破砕帯の連続性評価について

連続性評価結果

- の乏しい破砕部が3条対象破砕帯となる可能 性を最大限考慮するため、これまでの連続性 の選定に関する指摘についても,破砕帯の新 重要施設の近傍に位置する破砕帯や連続性 日関係と連続性評価との間に矛盾を生じさせ 評価の基準を一部変更した。加えて, 破砕帯 ないとの観点からも、これまでの連続性評価 の基準を一部変更した。
 - 上記の変更及びそれを踏まえた検討の結果、 これまで4条対象破砕帯としていた破砕帯等 の一部については、3条対象破砕帯となり得 る可能性がある。
- 原子炉補機冷却海水取水路や防潮堤の南側 付近等においてデータ拡充や3条対象破砕帯 となり得る破砕帯が3条対象破砕帯であるか 図っていく(追加の調査や検討については具 を明確にするため、ボーリング調査等による (既存のコアの利用も含めた)データ拡充を 体的な計画がまとまり次第説明する)。 •

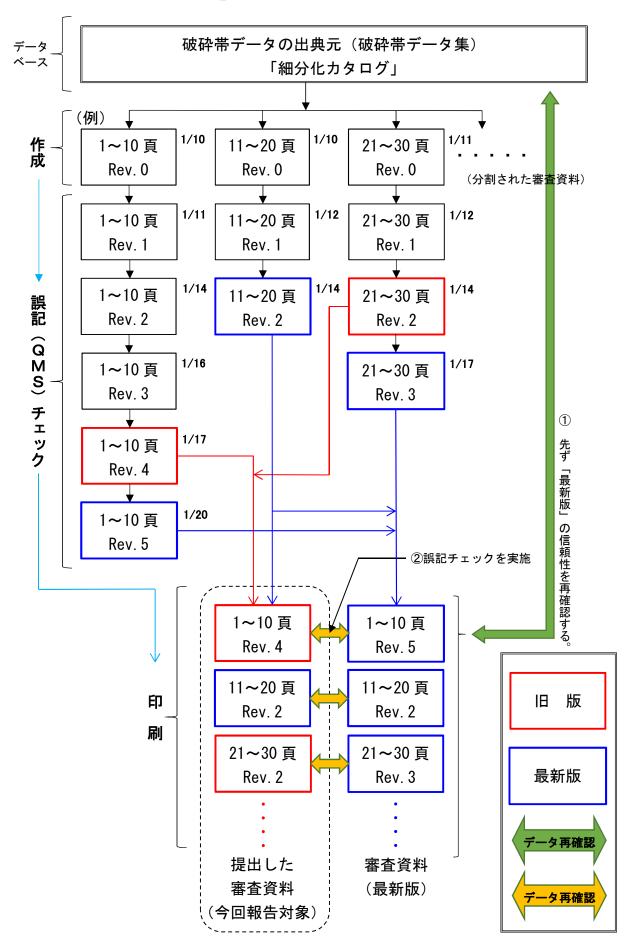
に伴う破砕帯分布図の変更は無い。 記載の修正(最新ファイルへの差替)



※浦底断層及び破砕帯はT.P.-15mの分布

枠囲みの内容は営業秘密又は防護上の観点から公開できません。

「記載の不備」発生イメージとデータ再確認箇所



余 白

机上配付資料1

本資料のうち、枠囲みの内容は営業秘密 又は防護上の観点から公開できません。

敦賀発電所2号炉

に関する審査資料の記載の不備について 「敷地の地形, 地質・地質構造について」

(正誤比較)

【机上配布資料1抜粋版】 1頁,2頁,3頁(表紙~目次) 132頁,133頁(連続性評価の具体的プロセス例) 452頁,453頁(性状一覧表例) 470頁,471頁(柱状図例)

令和元年8月23日 日本原子力発電株式会社





敦賀発電所2号炉 「敷地の地形、地質・地質構造について」 に関する審査資料の記載の不備について(正誤比較) 目 次

		資料名	該当ページ(資料の右下)	正誤比較ページ (資料の右上)
平成29年12月22日	本編資料	5.敷地の地質構造	106,107,179	4~9
第536回 審査会合資料	参考資料(1/3)	2.敷地の地質構造	参考1-201,207~210,223~226,280,292,297,298,302,308~320,333,334, 355,356,384,385,395,396,402,437,438,442	10∼87
	本編資料	I	27,31,33,47,78,82,103	88~101
		2.原子炉建屋及びその周辺の重要施設	参考1-13,16,17,21,24,25,29,32,33,36,37,41,44,45,52,53,57,61,64,65	102~141
	参考資料1	4.原子炉補機冷却海水取水路、貯留堰等	参考1-92,97,109,117,124,125,136,137,152,161,165,168,169,172,173,184,185,189,193,201,205,209,212,213,220,229,237,244,245,245,248,249,265,277,280,281,285,288,289,297,301,305,309,317,320,321,325,333,340,341,345,361,368,369,372,373,381,385,389,397,400,401,409,412,413,417,421,425,429,432,433,436,437	142~287
		5.防潮堤(防潮扉含む)及びその周辺の重要施設	参考1-445,449,457,469,472,473,481,485,489,493,497,505,509,513,516,517,525,529,533,536,537,541,545,553,557,565,568,569,573,577,579,581,593,609,613,617,620,621,633,641,645,649,652,653,657,660,661,668,669,673,677,681,693,701,705,708,709,713,717,721,725,733,736,741,745	288∼419
		目次	参考2-3	420,421
		1.浦底断層	参考2-10	422,423
		2.D-1破砕帯	参考2-35,36	424~427
平成30年11月30日		3.K断層	参考2-45	428,429
第657回		5.D-14	参考2-64	430,431
杂 合資料	余を浴れる	6.D-5破砕帯	参考2-69	432,433
	W-5 JA11	7.H-3a破砕帯	参考2-77	434,435
		9.D-17~D-28破砕帯	参考2-96	436,437
		10.D-29~D-47破砕帯	参考2-109	438,439
		12.f-①-1-3~f-④-13破砕帯	参考2-154	440,441
		14.H−1~f−b−4−6	参考2-167,168	442~445
		15.非モデル化破砕帯	参考2-184~195	446~469
		D-1 (H27-B-3)	参考3-40	470,471
		D-1(H24-B14-2)	参考3-126	472,473
		D-1 (H24-D1-1)	参考3-142,143	474~477
		D-1(H27-B-1)	参考3-154~157	478~485
	参考資料3	D-1(H27-B-2)	参考3-170,172,173	486~491
		D-5(H24-B11-1)	参考3-295	492,493
		D-3(H27-Br-1)	参考3-539	494,495
		D-20(H20-(4)-2)	参考3-597	496,497
		D-36 (H24-B8-29)	参考3-650	498,499



第657回審查会合机上配付資料1 修正前

(原子炉建屋等, 起点破砕部:2号炉底盤南端, D—3破砕帯)〔B-B' 断面〕 連続性評価の具体的プロセス

		連続性検討結果に関する備考						* 4		**4	**4				**4	**4	*3	*3	£	**4	* ×				**	**4	44
		性状一覧表			参考2-86	参考2-86	参考2-87	参考2-130 ※	参考2-129	参考2-129 >>	参考2-89	参考2-129	参考2-129	参考2-130	参考2-70 >>	参考2-130 >>	参考2-57	参考2-99	参考2-138	参考2-90 >>	参考2-118	参考2-188	参考2-118	参考2-188	参考2-184	参考2-184 ※	参考2-185 ※4
		破砕帯名		D-3	D-2	D-2	D-3	f-13-3	f-12-3	f-12-4	D-4	f-12-6	f-12-7	f-12-8	D-5	f-12-10	9-Q	D-19	f-0-1-3	D-7	D-43	非モデル化	D-43	非モデル化	非モデル化	非モデル化	非モデル化
		連続性検討結果			×		0	×		×	×				×	×	×	×	×	×	×				×	×	×
	変位センス	N:正断層 RL:右横ずれ	R:逆断層 LL:左横ずれ								N,RL																
12		条線方向			-	57L	75L	25L	26L	30R	20F	42L	3R (不明瞭)	85R		24L					75L	٠	66R				
性状		明明なせん断構造・	※大を の の 単		#	無	柜				無	無	#	無	重	無	柜	無	#	無					#	#	無
		断層ガウジ・断層角礫	の有無		卓	柜	柜	無	#	無	俥	甲	恒	单	甲	柜	柜	俥	乍	柜	無	無	無	無	俥	俥	俥
	61	Mana Mana Mana Mana Mana Mana Mana Mana	Ē.		9	27	10	6	19	6	Э	3	6	4		2			,		2	22	20	14	17	7	12
		(強)		80W	(74)	53W	70W	M68	61W	71W	83W	83W	71W	84W		85W	٠	٠			75W	282	S09	929	(63)	(73)	(89)
	1 444444	走向の差(8)	<u> </u>			13	9	22	32	18	9	47	20	31		54					23	62	43	71			
		中	I	N10W		N3E	N4W	N12E	N25E	J8R	N4W	N37E	N40E	N21E	٠	N14E	٠	٠	٠	٠	N33W	W89W	N53W	N81W	٠	٠	٠
E 44	饭你帝郭四	下端深度	(E)	(T.P15m)	00.77	36.58	58.43	75.08	82.50	99.06	104.22	119.72	152.09	169.46	172.45	222.88	225.08	228.79	230.07	247.64	31.44	34.70	14.42	15.13	28.53	39.14	73.63
į	40X 04	上端深度	(E)	T)	76.60	36.35	58.41	75.04	82.48	90.45	104.12	119.64	152.06	169.38	172.20	222.85	224.67	228.53	230.00	247.57	31.28	34.37	14.41	14.78	28.46	39.09	73.62
		野面図上の番号			0	Θ	@	0	4	9	9	©	⊚	6	9	(3)	(3)	(1)	3	9	Θ	©	Θ	8	0	@	⊚
		連続性検討師師													İ	田田田											
		対比する ボーリング孔			H19-No.11								H19-No.12								100 € 100 H	C-⊕-07⊔	3 6 00 1	Q		H19-No.10	
		草草		2号炉底盤南端		•															•						

(注) 原成の産のは、2単序度銀行は74分分布のトンンドを示す。(注) 原成の意義は、数質発育を原子が設備する申請機(29字)に記載の其態なび打ての値を示す。

()の傾斜角:ボーリングコア観察結果による値

起点の破砕部の走向・傾斜から±25°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±25°以内のもの 起点の破砕部の走向・傾斜から±250の範囲内のもの

起点の破砕部の走向・値斜から±25の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・極斜の差が±25以内で、かつ、性状のうち断層が少・断層角線の有無及び仕ん脈構造・変形構造の有無が一致するもの 起点の破砕部の走向・傾斜から±25°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±25°以内の可能性があるもの

起点の破砕部の走由・倉銭から+28の範囲な行分布し、かつ、両者の走向・値斜の巻が+285以内で、かつ、性状(原偏力分・所偏角線の角無、せん原稿道・数形績道の有無、保縁方向もしくは変位センス)が整改するもの 起点の破砕即の走向・傾斜から±25の範囲内に分布し,かつ,両者の走向・傾斜の差が±255以内で,かつ,性状のうち断層がウン・断層角喙の有無及でせん断構造・変形構造の有無が類似するもの

起点の破砕部の走向・傾斜から+25の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・極斜の差が+255以内で、かつ、性状のうち斯層ガウジ・斯層角喙の有無、せん野構造・変形構造のを無道の無構造・象影構の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの

第657回審査会合 机上配付資料1 修正後

(原子炉建屋等, 起点破砕部:2号炉底盤南端, D—3破砕帯)[B-B'断面] 連続性評価の具体的プロセス

				田外地名田	田場			-			在状						
				WXP+17	Elant	1	子標学館イ色	1	子館はは傷イ		HHBGS+>		変位センス				
起点	対比するボーリング孔	連続性検討範囲	原画図上の細巾	上端深度	極黙響上	上版 平		TPE COLUMN		斯層ガウジ・ 斯層角楽	はん野構造・	条線方向	N:正断層 RL:右横ずれ	連続性検討結果	破砕帯名	性状一覧表	連続性検討結果に関する備考
				(m)	(m)					の右無	がたまり		R:逆断層 LL:左横ずれ				
2号炉底盤南端				(T.P	(T.P15m)	N10W	- 80	80W							D-3		
	H19-No.11		Ð	76.60	77.00	-	- (74)	4)	9	有	#			×	D-2	参考2-86	
			Θ	36.35	36.58					佢	#	27L		×	D-2	参考2-86	
			8	58.41	58.43	N4W	6 70	70w	10	申	申	75L		0	D-3	参考2-87	
			©	75.04	75.08	N12E	22 89	M68	6	無		25L		×	f-13-3	参考2-130	**
		•	9	82.48	82.50	N25E	35 61	61W	19	#		26L	-		f-12-3	参考2-129	
			®	90.45	99.06	N8E	18 71	71W	6	#		30R		×	f-12-4	参考2-129	**4
			9	104.12	104.22	M4W	6 83	83W	23	佢	Ħ	20F	N, RL	×	D-4	参考2-89	**4
			0	119.64	119.72	N37E	47 83	83W	m	申	#	42L			f-12-6	参考2-129	
	H19-No.12		@	152.06	152.09	N40E	50 71	71W	6	柜	無	3R (不明瞭)			f-12-7	参考2-129	
			6	169.38	169.46	N21E	31 84	84W	4	自	#	85R			f-12-8	参考2-130	
		42000	9	172.20	172.45			_		佢	单			×	D-5	参考2-70	**4
			(3)	222.85	222.88	N14E	24 85	85W	2	重	#	24L		×	f-12-10	参考2-130	**4
			Ø	224.67	225.08					柜	俥			×	9-Q	参考2-57	*3
			9	228.53	228.79					自	#			×	D-19	参考2-99	*3
			(%)	230.00	230.07		<u>.</u>			柜	無			×	f-①-1-3	参考2-138	*3
			9	247.57	247.64			_		佢	無			×	D-7	参考2-90	**4
	H20-0-1		Θ	31.28	31.44	N33W	23 75W	M.	r2	#		75L		×	D-43	参考2-118	**3
	9		@	34.37	34.70	W68N	79 58	282	22	#			,		非モデル化	参考2-188	
	9 - OCH		Θ	14.41	14.42	N53W	43 60	S09	20	#	,	999	,		D-43	参考2-118	
	021		0	14.78	15.13	N81W	71 65	922	14	無					非モデル化	参考2-188	
			Œ	28.46	28.53		- (6	(63)	17	申	#			×	犯がデチ非	参考2-184	**4
	H19-No.10		0	39.09	39.14	-	- (73)	3)	7	価	#			×	非モデル化	参考2-184	**
			(3)	73.62	73.63		- (89)	8)	12	佢	Ħ			×	非モデル化	参考2-185	**4

(注) 配法の連向は、2号が原盤における分布のトレンドを示す。 (注) 起法の連向は、2号が原盤における分布のトレンドを示す。 (注) 起法の基礎は、数質物電所要子等設置件の単磁器(2号形)に配義の遊場所Cれての値を示す。

()の傾斜角:ポーリングコア観察結果による値

起点の破砕部の走向・値斜から±25の範囲内に分布し,かつ,両者の走向・極斜の差が±259以内で,かつ,性状のうち断層が少シ・断層角線の有無及びせん断構造・変形構造の有無が一致するもの 起点の破砕部の走向・傾斜から±25°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±25°以内の可能性があるもの 起点の破砕部の走向・傾斜から±25°の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・傾斜の差が±25°以内のもの 起点の破砕部の走向・傾斜から±250の範囲内のもの

起点の破砕部の走向・傾斜から+25の範囲内に分布し、かつ、両者の走向・極斜の差が+255以内で、かつ、性状のうち斯層ガウジ・斯層角喙の有無、せん野構造・変形構造のを無道の無構造・象影構の有無が類似し、条線方向もしくは変位センスが類似する可能性があるもの 起点の破砕部の左向・痛鈍から+28の範囲内に分布し, かつ, 両者の走向・値斜の差が+285以内で, かつ, 性状 (断層ガウジ・所層角線の有無, せん断構造・変形構造の有無, 条線方向もしくは変位センス) が類似するもの

起点の破砕即の走向・傾斜から±25の範囲内に分布し,かつ,両者の走向・傾斜の差が±255以内で,かつ,性状のうち断層がウン・断層角喙の有無及でせん断構造・変形構造の有無が類似するもの

	156	165	170	23	169	е п	12	, n	9
set (sh)	951			22	198				
数位センス部員 米平	10	34	24.5	9	i.	i.	<u>.</u>	i.	
数位 的 库	10	Si	(30)	9	i.	i i	i,	i.	
条方線向	16	9	1	0	<i>V</i>	1	T	1	T.
超級出	10	(8	-1	1	1	6	,	(:	,
機能 せん所権が 校形権が	JH.	- 0	Æ	Æ	JE.	63	BE.	#E	
所服ガウジ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	80	<u> </u>	8.	5.0	60	ř	7.0	0.2	ž.
機体機 (cm)	īú	6.7	75	2.0	3.0	10.0	17.0	2.5	180
益	76W	78W	89W	72E	1		1.	40N	W55
包	N36E	NSE	NZOE	N34W	1	6	r	N83E	M M
	155.75	164.25	169.63	22.46	168.32	295	1611	200	18.83
保存排前国 上額深度 下線採度 (m)	155,72	164.15	-	22.44		2.66	11.73	4.96	553
機関	H19-No.18	H19-No.18	H19-No.18 169.62	H19-No.19	H19-No.19 168.28	H20-①-1	H20-①-2	H20-①-3	HZ0-①-3
野田図上の番号		19	6	0	9	Θ	0	Θ	8

【破砕幅】 松状破砕部、角機状破砕部、 粘土状破砕部、砂状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部 回結した粘土状破砕部の 固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部 の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。 [平滑さ] 平・海:最新活動面が直線的なもの 非平滑:最新活動面が適場もあるもの

○:粘土の狭在物が認められる箇所 *1.鑑頭 *2.試器坑 *2.試器坑

凡例

性状一覧表(4/12) 15.非モデル化破砕帯

第657回審查会合机上配付資料2 修正後

and Def	156	164	170	22	169			4 STATE OF THE PROPERTY OF THE	
変位センス 沿直 水平	10.	J.	74	19	65	.9	39	E	15.
1.275	9%	A)	3.	73		2	38.	To:	100
条方線向	10	12	ж	10	40	21	20.	E:	t.
超線出	, i	ř.	,	.1	Ů.	1	- 1	1	i.
斯羅ガウジ・	艇	9.5	ME	#	ali.	23	Æ	Æ	
原施力心 原施女妻の 健 健 (cm)	0.3	ν.	22	20	0.3	31	07	0.2	Ε.
破碎幅 (cm)	51	19	5	2.0	3.0	10.0	17.0	2.5	180
益	76W	/8W	89W	72£	E.	3	<u>(8</u>	40N	25W
包	N36E	#	N20E	N34W	10	18	- 1	N83E	E E
破砕帯範囲 上盤深度 下盤深度 (m) (m)	155.75	164,25	169.63	22.48	168.32	295	1671	8.00	
級砕器範囲 上盤深度 下盤3 (m) (m)	155.72	164.15	169.62	22.44	168.28	2.66	11.73	4. 9.9.	10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1
2000年	H19-No.18 (銀料60°)	HIG-No 18 (着祭60°)	H19-No.18 (衛衛60°)	H19-No.19 (\$国新70*)	H19-No.19 (強約70°)	H20-①-1 (新龍)	H20-①-2 (編纂54°)	H20-①-3 (衛康)	H20-①-3 (約庫)
原面図上 の参与	•	9	9	0	0	0	⊖	Θ	8

[破砕幅] 粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、 固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部 の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

[平滑さ] 平 滑:最新活動面が直線的なもの 非平滑:最新活動面が湾曲するもの

13

○ :粘土の狭在物が認められる箇所 *1:露頭 *2:試掘坑 :断層ガウジ 凡例 (1) 「最新活動面(← → :破砕幅

柱状図(30.00m~60.00m)

第657回審查会合 机上配付資料3修正前

標	標	深	柱	岩	色	岩		最	R	コア採取率	
尺	高	度	状	種		級	ア採	大コ	Q	最大コア長	記事
,(反	11	区		区	取率	ア長	D	R Q D	ac p
m	m	m	図	分	調	分	(%)	(cm)	(%)	0 20 40 60 80 100	
			++++		明褐灰	CL'	100	26	36	-++•	30. 56~32. 21m
			+ + + + +			CH'	100	17	40		・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
			+ + + + +		灰	CM'	100	10	10	++	*
			++++		褐	CL'	100	5	0	-	*
			<u> </u>			OM'	100	9	0		34.20~35.94m ・硬質だが、密着度の低い割れ目が多い。
			++++			CM'	100	8	0		AZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZ
			++++		にぶい	CH'	100	19	43		35.94~37.30m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
			++++		_	CM.	100	16	16	1	37. 69∼37. 81m
			+ + + +		灰褐	CL'	100	10	10	++++++	・割れ目沿いに砂状を呈する。
- 40			‡+‡+			CM' CL'	100	10	10		・白色の粘土脈を挟む。
_ 40			++++				100	11	11		10.70 11.00
			++++			CM'	100	9	0		40.79~41.83m ・硬質であるが、割れ目が多い。
			++++			CL'	100	8	0	+++++++++++++++++++++++++++++++++++++++	40.05 40.04 (11.05474#)
			++++	**		CT.	100	13	33	+++	●42.85~42.91m(H-2破砕帯) ・破砕部である。
			+	花崗		CM'	100	11	11	+++++++	・右ずれセンスである。 ・明褐灰色の固結礫状部からなる。
			++++	斑岩	明	CL'	100	12	12	1	・・走向・傾斜はNS71°Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。
			++++	,_	褐	CM'	100	11	21		*・上端境界の傾斜は45°, 下端境界の傾斜は
			+		灰	CI.	100	11	11		66° である。 46.14~48.61m
			++++			CM'	100	6	0		・硬質であるが、割れ目が多い。 ・上部は長石の多くが白濁化する。
- 50			++++				100	7	0	++++	・一部で割れ目沿いに、砂状〜細片状を呈する。
_ "			++++				100	4	0	• + + + - - - - - - - - -	
			T+T+				100	4	0	♦ † † † † † † † † † † † †	*
			++++			CL'	100	6	0	++++	
_			+ + + + +		10		100	6	0	♦ † † † † † † † † † †	↓53.10~55.82m - ・割れ目が多く,一部割れ目沿いに砂状を呈
_			++++		Si		100	5	0	♦++++++++++++++++++++++++++++++++++++	し、白色粘土を挟む。
.			++++		が橙		100	3	0	++++++++++++	*
.			++++		浅黄 /	D'	100	2	0	• + + + + + +	●56, 69~56, 72m
_			T###		灰褐	CL'	100	3	0	•	・破砕部である。 ・右ずれセンスである。
_			++++		橙	OL.	100	2	0	*	・主に淡黄色の固結礫状部からなる。
			<u>+</u> †+;-		灰褐	CL'	100	5	0	* L	*・黄灰色の未固結粘土状部:累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN2°W36°Wである。
						CL.	1				・上端境界の傾斜は30°, 下端境界の傾斜は31°である。
											●58.89~58.98m
											・破砕部である。・左ずれセンスである。
											・主ににぶい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部:累計幅1.5cm
											・走向・傾斜はN11°W54°Wである。 ・上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は
											25° である。
											●59.69~59.75m ・破砕部である。
											・右ずれ正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。
											・黄褐色の未固結粘土状部:累計幅0.1cm
											・走向・傾斜はN37°E48°Wである。 ・上端境界の傾斜は52°、下端境界の傾斜は
											37° である。

柱状図(30.00m~60.00m)

第657回審查会合 机上配付資料3修正後

標	標	深	柱	岩	色	岩	コア	最	R	コ フ	採	取率	
尺	高	度	状	種		級	採	大コ	Q	最け	<u> </u>	ア長	記事
7	同	及	1)	区		区	取率	ア長	D	R	Q	(cm)	高C →
m	m	m	図	分	調	分	(%)	(cm)	(%)	0 20	40 E	[%]	
			++++		明褐灰	CL,	100	26	36	-++++	ξ:		30. 56~32. 21m
ē l			+++ +			CH'	100	17	40	141	士	ttt	・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
			<u>+</u> +++		灰	CM'	100	10	10	111	ii	EEET.	
8			+		褐	CL'	100	5	0	++++	丰		34. 20~35. 94m
			++++			CM'	100	9	0	- 	77-	EEFF.	・硬質だが、密着度の低い割れ目が多い。 -
8			++++		にぶい	0111	100	8	0	101	1	HH	35. 94~37. 30m
0			++++		褐	CH'	100	19	43	1	1		・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
8			+		灰	CL'	100	16	16	1	77		37.69~37.81m
ğ			++++		褐	CL'	100	10	10	77	7-7-	EEEE	・割れ目沿いに砂状を呈する。 ・白色の粘土脈を挟む。
- 40			<u> </u>			CL'	100	11	11	111	11-		-
e .			<u>+</u> +++			CM'	100	9	0	111			40. 79~41. 83m
S			++++			CL,	100	8	0	411	11-		・硬質であるが、割れ目が多い。
			++++			D.	100	13	33	- + -			●42.85~42.91m(H-2破砕帯) ・破砕部である。
			<u></u>	花崗斑		CM'	100	11	11	1	11:	Ett.	右ずれセンスである。
.			<u> </u>	斑岩		01.	100	12	12	77	11-		・明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はNS71°Wである。
5			++++	石	明褐灰	CM'	100	11	21	• 1	11.		・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は45°, 下端境界の傾斜は
			++++		灰	1000000	100	11	11	+++	11		66°である。 46.14~48.61m
			++++			CM'	100	6	0	111	77		・硬質であるが、割れ目が多い。 ・上部は長石の多くが白濁化する。
- 50			++++				100	7	0	→			・一部で割れ目沿いに、砂状〜細片状を呈する。
			++++				100	4	0	++++	jj.	LLL	
8			++++				100	4	0	++++ ++++	計		
			‡+‡+:			CL'	100	6	0	++ + + ++ + +			50 40 55 00
			++++		1=		100	6	0	+ + + +	1		53.10~55.82m ・割れ目が多く,一部割れ目沿いに砂状を呈
			++++		ぶい		100	5	0	+++-			*し、白色粘土を挟む。 -
8			++++		橙	,	100	3	0	++++	1	1777	10
88			++++		浅黄 灰黄褐	D'	100	2	0	++++	77-		●56. 69~56. 72m
į.			++++		灰褐	CL'	100	2	0	1 1 1		FFFF	・破砕部である。 ・ <mark>右ずれ正断層</mark> センスである。
8			++++		<u>橙</u> 灰褐	CL'	100	5	0	++++			・主に淡黄色の固結礫状部からなる。 ・黄灰色の未固結粘土状部:累計幅0.1cm
_	-		++++		八吨	OL.	100	-	-	1.1.1	1.31		・走向・傾斜はN2°W36°Wである。 ・上端境界の傾斜は30°,下端境界の傾斜は
						VE.							31°である。 ●58.89~58.98m
													・破砕部である。
													・左ずれセンスである。・主ににぶい黄橙色の固結礫状部からなる。
													・灰白色の未固結粘土状部: 累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN11°W54°Wである。
													・上端境界の傾斜は20°,下端境界の傾斜は25°である。
													●59.69~59.75m ・破砕部である。
													・右ずれ正断層センスである。
													・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・黄褐色の未固結粘土状部:累計幅0.1cm
													・走向・傾斜はN37° E48° Wである。 ・上端境界の傾斜は52°, 下端境界の傾斜は
							,,,			,			37° である。